

第4問 (20点)

東九条製作所では、実際個別原価計算を採用している。次のデータにもとづいて、6月の仕掛品勘定および製品勘定を作成しなさい。

[資料]

1. 指図書別の製品製造データ

指図書番号	直接材料費		直接労務費		備考
No.105	412,500 円		672,000 円		5/24 着手、5/28 完成、6/9 販売
No.106	5月分	225,000 円	5月分	240,000 円	5/25 着手、6/4 完成、6/10 販売
	6月分	75,000 円	6月分	240,000 円	
No.107	450,000 円		768,000 円		6/3 着手、6/9 一部仕損、6/14 完成、6/17 販売
No.107-2	105,000 円		48,000 円		6/10 補修開始、6/11 補修完了
No.108	225,000 円		432,000 円		6/13 着手、6/18 完成、6/26 在庫
No.109	112,500 円		336,000 円		6/23 着手、6/30 仕掛

なお、No.107-2 は、一部仕損となったNo.107 を合格品とするために発行した補修指図書であり、仕損は正常なものであった。

- 直接工賃金消費額である直接労務費の計算では、予定消費賃率 1,200 円/時間を適用している。
- 製造間接費は、直接作業時間を配賦基準とし、2,000 円/時間の配賦率を用いて、各製造指図書に予定配賦している。

第 5 問 (20 点)

加須社は、製品 A を製造・販売しており、原価計算方法として直接原価計算を採用している。以下の [資料] にもとづき、各問に答えなさい。

[資料]

1. 販売単価 3,600 円/個
2. 当月実際製造費用データ
 - (1) 直接材料費：900,000 円
 - (2) 賃金：1,440,000 円
 - (3) 製造間接費：1,940,000 円
3. 当月実際販売費及び一般管理費データ
販売費及び一般管理費：1,223,000 円 (変動販売費：280 円/個)
4. 当月における生産・販売データ (月末製品の評価は先入先出法を採用している)

月初仕掛品	—	月初製品	300 個 (月初有高：480,000 円)
当月投入	1,800 個	当月完成	1,400 個
合計	1,800 個	合計	1,700 個
月末仕掛品	400 個 (50%)	月末製品	200 個
当月完成	1,400 個	当月販売	1,500 個

※ 月初有高はすべて変動費である。

問 1 仕掛品勘定と月次損益勘定の①～⑥の金額を答えなさい。

仕 掛 品 (単位：円)				月次損益 (単位：円)			
材 料	900,000	製 品	③	売上原価	⑤	売 上	①
賃 金	②	次月繰越	④	賃 金	800,000		
製造間接費	960,000			製造間接費	?		
	?		?	変動販売費	?		
				固定一般管理費	803,000		
				年次損益	⑥		
					?		

問 2 問 1 で示されている月次損益勘定に集計された金額を用いて、①当月における損益分岐点販売量、月次損益勘定で集計される年次損益が 437,400 円となるときの②目標売上高と③目標販売量を答えなさい。